

デパートは不況である。だから収益を得るために、賃貸料が払えるテナントを入れる。そうして今や昔の「百貨店」の面影もなく、銀座も新宿も池袋も、同じテナントが同じ商品を買っている。当然人件費も節約しているだろう。良いバイヤーさんがいないのか、海外の契約が取れないのか、輸入品のめぼしい商品が見当たらない。

最近一番困ったのが靴である。かつてデパートで買ったイタリア製の靴が、ついにダメになった。夏場しか履かない靴であるが、踵底と敷き側交換を繰り返し、何と10年以上も履いた。そこで新しい靴を探したわけだが、これが困難を極めた。私がイタリア靴を探す理由は、足幅が狭く、足先が薄く指が長いからである。以前、日本の老舗店で、私の主張を否定してシューフィッターが太鼓判を押した靴で足を痛め、私の主張通りの靴に交換してもらったケースがあるので、それ以来日本の靴を敬遠する羽目となった。その時出会ったのがイタリアの靴で足にフィットしたからである。

そこでイタリア製を探して歩いたのだが、輸入品は何処へ行ってもファビオ。ピンヒールに近いもの、でなければ1cmほどのヒールのもので多く、適度な高さで気に入った形のものが見つからない。(私もファビオは持っているが5cmヒール。また同じブランドでもデザインにより合わない物もある)昔は各デパートで、それぞれのバイヤーのセンスで仕入れた、超有名ブランド以外の履きやすい3~5cmヒールの輸入靴が売られていた。フィンランドの雨靴もおしゃれで良かった。靴は履いて立っているためのものではない。歩くためのものである。今やデパートに行ってもそういう靴は手に入らない。(ミハマに「歩くための」合う靴があつて一安心)

また洋服であるが、これがトレンドとなったら、各テナント似たようなデザインばかり。デパート仕入れの時の方が個性があった。バッグも昔はバイヤーさんのセンスの1点ものが目を引いた。そして商品を見ている時、ちょっとした説明をさりげなくしてくれたのが、迷いを払拭して買う決め手となった。

そのように昔はデパートのバイヤーさんのセンスによる、遊び心と実用性を兼ねた、気取らない品の漂う魅力的な商品が並んでいた。今やそういうバイヤーさんを雇う経費はないんだろうなあ。あるいは他国の台頭で、契約がとりづらいいのかもしれない。また欧州でも日本と同じく、質にこだわる企業が生き残りづらいいのかもしれない。すべては消費者経済次第だが、今のデパートは質より無駄な量という感じだ。

そして食料品である。これもまたテナントなので総菜は各デパート画一。何処へ行っても同じ店、同じメニュー。仕事帰りに乗換駅で数件のデパートに寄ることが可能であるが、メニューに変化がないし、高いものほど凝り過ぎて不味いものが多い。従って寄っても店内を見回した挙句、結局げんなりして、メニューに変化のあるスーパーマーケットで買うことが多い。デパートに替わって「百貨」になったのはネットである。しかし実物を見なければ品質を確認できないものもある。そこで私はデパート以外の駅ビル・駅地下などの店舗を開拓する。デパートより材質は劣っていないのに安く、着やすく・美味しいものがよく見つかる。ある時、気に入った服が見つかった店で商品を誉めたら「社長のこだわりで」と答えが返って来た。その店では繰り返し買う。要するに自信を持って薦められる商品を買っているのだ。今のデパートは流動的 他力本願。家賃収入に頼るだけで、独自のポリシーがないのではないか?(2018.8.25)